

# 医学教育学

担当指導医師

●本学

教授：伊藤 智範

教授：高田 亮

特任講師：相澤 純

学修方針（実習概要等）：

地域医療施設における総合診療を通して、大学病院では経験することの少ない症候や一般疾患の対応を学ぶ。学生は外来・訪問診療に参加し、問診・身体診察・臨床推論の実践を重ねることで、総合診療医の診断思考と地域包括ケアの視点を身につける。限られた資源下での判断や多職種連携を体験し、患者中心の医療を実践する態度を育成する。

教育成果（アウトカム）：

発熱・咳・腹痛など、診断が決まっていない段階の患者に対して、構造化された医療面接・身体診察を行い、患者背景（生活・家族・社会要因）を踏まえて、合理的な臨床推論を実践できる。限られた情報や検査資源の中でも、鑑別診断を絞り込み、初期対応・治療方針を立案できる。患者・家族・医療介護職と効果的にコミュニケーションを行い、信頼関係を築きながら、チームとして患者の問題解決に向けて協働できる。地域包括ケアの構造、医療・福祉連携の役割、社会資源の特徴を理解し、実臨床の中で患者中心の医療を実践する態度を示すことができる。

（ディプロマ・ポリシー：1,2,3,4,5,6,7,8）

行動目標（SBOs）：

1. 症候に対し、臨床推論に必要な医療面接項目・身体診察所見を整理し、疾患群ごとに鑑別診断リストとして体系化できる。
2. 担当症例について、問診・身体診察・問題リスト立案・鑑別・検査選択・診断・初期対応の流れを、指導医にプレゼンテーションできる。
3. 自身が未修得の医行為・手技を抽出し、学習計画を作成できる。
4. 外来診療や訪問診療において、患者の訴えを適切に把握し、指導医の監督下で必要な診察手技を安全に実施できる。
5. 患者・家族とのコミュニケーションにおいて、医療者として適切な態度を

- 示し、信頼関係を築くことができる。
6. 地域医療施設における他職種（看護師、薬剤師、介護職、MSW など）と協働し、患者の生活課題を含めた問題点を抽出し、解決に向けた方策を議論・提案できる。
  7. 地域包括ケアの仕組みと各職種の役割を説明し、担当症例に即して、地域での支援体制を述べることができる。

特に留意すべき注意事項：

実習中は、常に指導医よりフィードバックを行う。  
知識や技能の他、態度についても評価を行う。

事前学習時間：

医行為基準で経験していないものを抽出しておく。症候学のスライド、エクセル表を確認し、実習で活用できる様に理解しておく。

スケジュール：

月～金：地域医療施設で参加型臨床実習を行う。  
金の午後：医学教育学講座教員と今週の振り返りと来週に向けての目標設定を行う（Zoomで実施）。

その他：

授業に使用する機械・器具と使用目的

## 高次臨床実習スケジュール [医学教育学] 多職種連携実習

指導医師名：①地域医療施設指導医 ②伊藤智範教授 ③高田亮教授 ④相澤純特任講師

曜	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限
月 [場 所] (指導医)	オリエンテーション [地域医療施設] ①	外来・病棟実習 [地域医療施設] ①	外来・病棟実習 [地域医療施設] ①	外来・病棟実習 [地域医療施設] ①
火 [場 所] (指導医)	外来・病棟実習 [地域医療施設] ①	外来・病棟実習 [地域医療施設] ①	外来・病棟実習 [地域医療施設] ①	外来・病棟実習 [地域医療施設] ①
水 [場 所] (指導医)	外来・病棟実習 [地域医療施設] ①	外来・病棟実習 [地域医療施設] ①	外来・病棟実習 [地域医療施設] ①	外来・病棟実習 [地域医療施設] ①
木 [場 所] (指導医)	外来・病棟実習 [地域医療施設] ①	外来・病棟実習 [地域医療施設] ①	外来・病棟実習 [地域医療施設] ①	外来・病棟実習 [地域医療施設] ①
金 [場 所] (指導医)	外来・病棟実習 [地域医療施設] ①	外来・病棟実習 [地域医療施設] ①	外来・病棟実習 [地域医療施設] ①	フィードバック [医学教育学講座] ①②③④